

服飾文化史による「温故知新」のお手伝い

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部 生活デザイン学科 教授 横田 尚美
研究分野 : 服飾文化史、西洋服装史、日本洋装史

ロンドンの人気ファッションデザイナー、故ヴィヴィアン・ウェストウッドは、「過去において人間が何を成し遂げたかを理解し、それを今日のものと比較するよう努めるべきです。… そこから、未来がどんなものか少しずつ見えてくるかもしれません。」（「装苑」2004年4月号）と言っています。

服装史や日本民俗学の研究ノウハウが、オリジナルなファッションデザインや繊維産業界の活性化、また地域の魅力の再発見のために貢献できることを願います。

人間文化学部

■パリのファッションビジネスの歴史研究

当時の百貨店のビジネスの工夫は、現在でもヒントになります。限定販売、ダブルネーム、プライベートブランドなど19世紀後半からの手法です。研究資料である当時の通販カタログは、デザインソースの宝庫でもあります。

■ジャパンファッションウィークの取材と寄稿

2018年10月より、年に2回、東京コレクションを取材し、「アパレル工業新聞」紙に寄稿しており、生産現場の方々を中心に読まれています。トレンドを探るのではなく、時代の変化を追っています。昨今は、どのブランドもSDGsを念頭に服づくりをしています。

■社会人の方々へのフィードバック

2024年1月より、地方紙15紙ほどで12回連載の「服の福」というコラムで、衣生活の現状や問題点について皆さんに考えて頂く機会を持ちました。要望があれば、是非、様々な場で多くの方々と問題意識を共有させて頂きたいと考えています。



「京都新聞」2024年5月29日

■滋賀県湖東山間部の衣生活資料の調査

2018年秋に、滋賀県湖東地域の山間部のあるお宅から、沢山の衣料が見つかりました。これらは、海外で「BORO」と呼ばれ、高い評価を得ています。裏に継が当てられ何度も直された服、端切れや紐など、暮らしぶりがわかる貴重な資料です。学生とともに調査に取り組んでいます。



「山行きボッコ」

<特許・共同研究等の状況>

国際日本文化研究センター 「運動」としての大衆文化・接続する柳田國男 共同研究員 (2019~2024年)